

患者さんを急変から守る！

～看護部KIDUKIワーキンググループの取り組み～

はじめに

- 急激な状態の悪化や重症化などの院内急変は、全ての入院患者さんに起こる可能性のある有害事象です。
- 院内急変患者さんを対象にしたある調査では、重篤な状態（心肺停止）に陥った患者さんの60～70%は、その6～8時間前に何らかの体調変化などの前兆のサインを認めると言われています。
- 前兆のサインに迅速に気づき、早期に対応することで、最悪の事態である心肺停止に至らせないケアが必要です。
- 患者さんの近くにいる時間が最も長い職種である看護師が、「何かおかしい」と状態の変化に気付くことで、患者さんを急変させない看護を目指します。
- KIDUKI（気づき）コースでは、急変の前兆を捉えるためのトレーニングを行います。

RRSとは？

Rapid Response System

- 院内で急激な重症化を呈している患者さんをいち早く察知し、心肺停止となる前に医療処置を行うことで、患者さんの急変を未然に防ぐシステムです。
- 群馬大学のRRSは、急変の前兆のサインに気付いたスタッフが専用の内線番号をコールすることで、集中治療部（ICU）医師のPHSにつながります。
- ICU医師が患者さんの状態を把握し早期に集中治療を施すことで、患者さんの状態悪化を食い止める一助になります。
- 群馬大学では、このようなRRSを構築することで患者さんの安全を守っています。

効果的に機能するために？

システムの起動が重要



起動するのは誰か？

⇒いつもベッドサイドにいる
看護師

患者さんの安全を守るため、丸一日をかけてしっかり学んでいます。この内容は、新人看護師研修にも組み込まれています。



群馬大学KIDUKIコースを開催しています

患者急変 対応コース

for Nurses
ガイドブック

監修
日本医療教授システム学会
編集
池上敬一（群馬県立大学看護学教育センター）
浅香えみ子（群馬県立大学看護学教育センター）



急変対応に強くなる！

群馬大学患者急変対応コース
中級 臨床推論 & KIDUKI

日時：2019年6月29日（土）9:00～17:00

場所：東棟2階 第1スキルラボセンター

対象：ラダーレベルⅡ以上

18名までの人数制限があります（申し込み多数の場合は人数調整）

講師：KIDUKIワーキングメンバー

臨床推論って何？

臨床推論は、患者さんの疾患を予測・明確化し、問題解決しようとする思考過程のことです。

臨床推論を知ると下記のようなメリットがあります。

- 効果的なドクターコールができる
- 緊急度の判断（トリアージ）ができる
- 看護ケアに関連付けることで看護が楽しくなる

KIDUKIって何？

患者さんに対し「前兆に気づく・報告する・救命の連鎖をつなぐ」方法と思考過程を学びます。緊急対応コースではありません。

心肺停止患者の60～70%は、6～8時間前に急変前兆のサインを出しており、そのサインに気づくためのコースです。

受講申込方法：看護部キャリア開発支援システムから入力
講師：KIDUKIワーキンググループ
集学：理学療法士 宇治美 知美（内線9991000）
群馬県立大学看護学教育センター 看護部 KIDUKIワーキンググループ

【申込締切：2019年5月末日】

コースの内容

- ① 臨床推論
- ② 急変前兆に気付くための患者さんの評価方法
- ③ 効果的な医師への報告の方法
- ④ シミュレーター（模擬人形）を用いた急変初期対応の演習



集中ケア認定看護師による講義と机上での演習を行ないます。患者さんの症状から、どのような疾患や異常が考えられるのか想起し、看護師としてどのような対応が出来るのか議論します。

ある症状を訴える患者さんの動画を視聴し、その状況においてどのように評価するのか話し合い、思考過程を整理します。

①～③の学びを踏まえ、実際の急変場面を想定した状況で、模擬人形を用いてチームで対応する演習を行ないます。緊迫した状況でも冷静に対応できるよう何度も繰り返し演習を重ねます。

急変の前兆を察知した際に、効果的に医師に報告するための方策を学び、演習します。



おわりに

- 患者さんのそばに寄り添う看護師が、急変の前兆を早期に察知し迅速に対応することにより、安全な療養環境を提供できるよう、今後も質の高いコース運営を目指します。